Report for Creating Peace and Happiness
Musashino University Creative Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所通信 Vol.136　　2024 年 12 月 6 日発行

武蔵野大学サステナブルキャンパスプロジェクト

研究員　氏名　明石修
（研究代表）

本プロジェクトは、環境、人、社会の面から武蔵野大学のキャンパスのサステナビリティ推進することを目的とした教職員、学生協働のアクションリサーチプロジェクトである。2023 年度は主に下記の活動を行った。

1）大学の SDGs の取り組みの分析

Times Higher Education が発表している Impact Rankings（世界の大学の SDGs への貢献度の評価）をもちいて、世界の大学および武蔵野大学の SDGs の取り組みの特徴を分析した。分析の結果、世界の上位大学ではホリスティック（包括的）な視点に立った取り組みを行っている一方で、武蔵野大学は分野によってのばらつきが非常に大きいことが分かった。具体的には、SDG3(すべての人に健康と福祉を)、SDG8（働きがいも経済成長も）の分野は強い一方で、平等や環境の分野（SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG13（気候変動に具体的な対策を）、SDG14（海の豊かさを守ろう）、SDG15（陸の豊かさも守ろう））などが弱い傾向にあることが分かった。研究の成果はしあわせ研究所紀要に投稿中である。

2）コミュニティガーデンプロジェクト

大学キャンパス屋上で自然循環型の野菜作りや養蜂を通じて、人と自然、人と人のつながりを生むプロジェクトである。これまで有明キャンパスで活動を行ってきたが、今年度は武蔵野キャンパス 7 号館屋上にプランターを設置し活動範囲を広げた。有明の活動の参加者を対象に、活動への参加前後での人のつながりやウェルビーイングの変化について分析を行った結果、ソーシャルキャピタル、ウェルビーイングともに高まっていることが明らかになった。

3）じゅんぐりセンター

大学生生活やキャンパスで廃棄されるゴミをゼロにするという目標に向けて、3R ならぬ、7R（リフューズ（使わない）、Reform（よりよく変える）、Repair（修理する）、Rental（借りる）、リデュース（減らす）、リユース（再利用）、リサイクルの活動を推進するため、大学図書館のようにモノを貸し出す「モノの図書館」、キャンパス内での洋服の循環を生み出す「2nd Clothes」、給水機を設置してマイボトルを推進する「ウォーターサーバーPJ」などをおこなっている。